第7回 品質保証分科会 議事録

1. 日 時 平成 15 年 9 月 10 日 (水) 18:30 ~ 20:45

2. 場 所 日本電気協会 4 階 C, D 会議室

3. 出席者 (敬称略, 五十音順)

出席委員 : 飯塚分科会長 (東京大学), 唐澤副分科会長 (東京電力), 宮口幹事 (石川島播磨重工業), 伊藤 (NS ネット), 大塚 (関西電力), 久保田 (核燃料サイクル開発機構), 黒川 (発電設備技術検査協会), 佐々木 (中国電力), 佐藤 (東京商船大学), 下重 (グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン), 白石 (三菱電機), 清野 (原子力安全・保安院), 高橋 (富士電機), 谷本 (九州電力), 中世古 (中部電力), 中野 (原子力発電技術機構), 中村 (北陸電力), 三角 (三菱重工業), 結城 (原子力安全・保安院), 吉村 (日本原燃), 渡邊 (東京電力)

代理委員 : 岡村 (電源開発 川尻代理), 辻本 (日本原子力発電 濱田代理), 平山 (東北電力 村上代理), 三ヶ月 (日立製作所 鈴木代理), 矢作 (東芝 松永代理), 山田 (四国電力 先田代理)

常時参加者 : 穴原 (東京電力)

オブザーバ : 伊東 (三菱原子燃料), 大石 (東京電力), 児玉 (原子力安全・保安院), 近藤 (東京電力), 白崎 (関西電力), 米田 (原子燃料工業)

事務局 : 浅井, 堀江, 上山, 国則 (日本電気協会)

4. 配付資料

資料 No.7-1 第 6 回品質保証分科会 議事録 (案)

資料 No.7-2 第 11 回原子力規格委員会 議事録 (案)

資料 No.7-3 第 11 回基本方針策定タスク 議事録 (案)

資料 No.7-4 品質保証分科会委員名簿

資料 No.7-5 品質保証検討会委員名簿

資料 No.7-6 JEAG4121-2003 原子力発電所における安全のための品質保証指針 (運転段階) (仮称) 制定案

5. 議事

(1) 会議定足数の確認

事務局より, 委員総数の 3 分の 2 以上の出席で会議開催条件を満たしているむねの報告があった。

- (2) 議事次第と配付資料の確認
当日の議事次第と配布資料が確認された。
- (3) 第 6 回品質保証分科会議事録（案）について（審議）
事前にメールで配信されていた，資料 No.7-1 の第 6 回品質保証分科会議事録（案）の内容は，全員の賛成で承認された。
- (4) 第 11 回原子力規格委員会，第 11 回基本方針策定タスク議事録（案）について
事務局より，資料 No.7-2，7-3 に基づき，第 11 回原子力規格委員会，第 11 回基本方針策定タスクの議事録（案）から当分科会関連の内容が紹介された。
- (5) 品質保証分科会新任委員候補・退任委員について
事務局より，資料 No.7-4 に基づき新任委員候補・退任委員の紹介があり，決議の結果本内容で次回の原子力規格委員会に提案することが全員の賛成で承認された。また，出席の新任委員候補から自己紹介をいただいた。
- (6) 品質保証検討会委員新任委員候補・退任委員について
事務局より，資料 No.7-5 に基づき，第 4 回品質保証検討会で確認された新任委員候補・退任委員の紹介があり，決議の結果全員の賛成で承認された。
- (7) JEAG4121-2003 原子力発電所における安全のための品質保証指針（運転段階）（仮称）
制定案について
渡邊委員（品質保証合同作業会主査）より資料 No.7-6 に基づき制定案が紹介され，検討会でコメントのあった箇所を中心に内容に関する議論の後，制定案について 9 月 16 日（火）夕切の書面投票に付すことが，全員の賛成で承認された。書面投票結果が決議となった場合，分科会での議論内容は，（もしあれば）書面投票時のコメント，関連する JEAC4111-2003 の公衆審査のコメントと合せて合同作業会で検討し，必要な反映を行った制定案修正版を分科会委員にメールで紹介し，次回 9 月 30 日（火）の第 12 回原子力規格委員会に上程することとした。

制定案に関する主な議論，コメントは以下のとおり。

(7-1) 「0.1 はじめに」品質保証の意味の再掲について

- ・ 品質保証において，信頼感を与えるために要求に適合する実力を実証することが重要であり，この内容でよい。

(7-2) 「0.2 指針の構成」事業者が取り組む活動について

- ・ 現在の ， の記載に加えて、「7.2.1 業務に対する要求事項の明確化」(例示)に示す内容を記載する。
- ・ 事業者の自主的な判断で取り組む事項であれば、「・・・事業者として取り組むべき・・・」の表現を見直した方がよいとのコメントが検討会であり，検討する。

(7-3) 「0.3 引用規格及び参考文献」について

- ・ 引用規格はこの指針の一部を構成するものとなるので，要求事項規格の場合は特に慎重に扱う必要がある。参考文献は参考にした文献を記載するものである。
- ・ 現在記載のない JEAC4111 も引用規格と扱うべき。
- ・ 「表 4.3 記録の保管期限へのグレード分けの適用例」の出典は JEAG4101-1993 であるが，内容を検討し必要な修正を加える場合は引用と扱わなくともよい。
- ・ その他の引用規格，参考文献も上記の主旨を踏まえて必要な見直しを行うこと。
- ・ 「ISO9000 要求事項及び用語の解説 [2000 年版]」については，正式な出版の前に日本規格協会に対し著作権の手続きを取ること。

(7-4) 「4.2.3 文書管理」外部文書について

- ・ 外部文書であっても文書そのものの管理に差異はない。外部文書の場合は作成や修正の権利が自分がないので，改定が行われたことを認識するなどの注意が必要なため，外部文書であることを明確にするというものである。

(7-5) 「5.1 経営者のコミットメント」トップマネジメントについて

- ・ 「監査部門」が QMS の外部にある場合は，「実施部門」の中に規格が要求する内部監査を実施する部門が必要であり，それとは別に「実施部門」は「監査部門」による QMS から見て外部の監査を受ける必要がある。
- ・ 5 章のトップマネジメントに対する要求事項の大半は，「・・・を確実にする」という要求であり，自ら実施する要求事項は少ない。
- ・ トップマネジメントの定義を ISO から変更したこともあり，JEAC の要求事項と JEAG の解説に相違があり，JEAG の解説の内容が許容されるのであれば，JEAC の要求事項や解説にその内容を記載するように修正する。

(7-6) 「6.3 原子力施設」について

- ・ 解説の内容を，JEAC の原子力施設の定義，JEAG4209 の原子力発電施設の定義も踏まえて検討の上，必要があれば修正する。

(7-7) 「7.2.1 業務に対する要求事項の明確化」明示されていないが業務に不可欠

な要求事項について

- ・ この要求事項は主に顧客要求事項であり，組織が必要と判断する追加要求事項とは明確に異なる。したがい，解説の「本要求事項は，限りなく c)の要求事項に近く，c)で明確にしてもよい」という文章は削除すべき。
- ・ 同じく解説の，「漏れなく」という言葉は削除すべき。

(7-8) 図 7.3 「設計プロセスにおけるレビュー，検証，妥当性確認の関係」について

- ・ 検証を設計ステップの途中で行ってもよいこと，設計の妥当性確認は設計アウトプットとニーズとの照合もあることや，レビューは検証の一形態でありあらかじめ決められた時点に実施することが，分りやすい図になるよう修正を検討する。

(7-9) 図 7.3.1 「設計・開発の計画」フロー図（例）について

- ・ インプットとは要求であり，()書きのメーカ情報・海外情報・不適合情報等は，インプットに加えることのできる情報であることが分る表現にすべき。

(7-10) 図 7.4 「調達における事業者と供給者の関係」

- ・ 図中で使われている発注，見積，契約という用語を，必要に応じ本文で使われている用語に合せることを検討する。

(7-11) 「7.5.4 組織外の所有物」について

- ・ 以前の例示 IAEA の監視カメラは適用されると考えてよいと思う。

(7-12) 図 8. 「評価及び改善」プロセスの構成について

- ・ 8.3 は物やある一つの行為の不適合について書かれており，8.5 はその原因を処置する要求で，5.6 はそれらを集積して全体を回す要求であり，3 重のサイクルで図示した方が処置に 3 段階があることも分りやすい。

(7-13) 「8.5.3 予防処置」の他の施設について

- ・ 「他の施設」については省令の要求に合せた用語に修正する。

(8) その他

次回分科会は予定通り 9 月 29 日(13:30 ~ 16:30)に JEAC4111 の公衆審査対応 JEAG4121 の分科会書面投票結果などを議題に開催することが確認された。

以 上